

平成十七年度予算は総額で三十二億五千五百万円 前年度当初比6.6パーセント減の緊縮型 厳しい財政状況を反映

第一回洞爺村議会定例会が、三月八日から二十三日までの会期で開かれました。

村長、教育長がそれぞれ村政執行方針、教育行政執行方針を述べ、平成十七年度一般会計及び五特別会計予算、各条例の制定並びに固定資産評価審査委員会委員等の選任など、議案二十五件を審議、いずれも原案どおり可決、同意されました。



村政執行方針を述べる菊地村長

平成17年度予算

平成17年度一般会計予算は、二十三億二百万円、平成16年度当初に比べ、一億九千五百万円、7.8%の減となりました。

また、国民健康保険、老人保健、介護保険、簡易水道、公共下水道の五特別会計の額は、九億五千三百三十八万九千円で、一般会計と特別会計を合わせた今年度の予算総額は、三十二億五千五百三十八

万九千円で、前年度当初に比べ、二億三千百八十四万六千円、6.6%の減となりました。

(予算のあらましについては、別冊『今年の村の予算と事業内容』をご覧ください。)

村長行政報告

▽洞爺村と虻田町の二町村で合併をめざすことに関する住民説明会及び住民意思の確認調査の実施について

豊浦町、虻田町、洞爺村の三町村において昨年六月二十八日に法定協議会を発足させ、去る一月十八日に第七回の合併協議会をもって、協定項目四十五項目の協議を終了し、協議結果についての住民説明

会をそれぞれ三町村で実施し、新町のまちづくりの方向性について示し、三町村による合併をめざしてきたところです。

このような中、豊浦町及び虻田町において、三町村での合併の是非について住民の意思を問う住民投票が二月二十七日実施され、その投票結果を踏まえ、豊浦町においては、二月二十八日、三町村合併協議会からの離脱という決定がされたところです。

豊浦町の離脱という急転直下の事態を受け、残る虻田町、洞爺村で法定協議会の継続の可否について協議を行い、共に早急に決断することで一致し、議会の市町村合併問題調査特別委員会に協議をお願いし、洞爺村としては住民意思を尊重する姿勢から洞爺村と虻田町の二町村で合併をめざすことに関する住民説明会及び住民意思の確認調査を実施しました。

住民意思の確認調査結果は、対象者千五百八十一人のうち回答者千二百十三人(回収率76・72%)、二町村の合併についての賛成者数八百六十六人(71・39%)、反対者三百四十二人(28・20%)、賛否不明五人(0・41%)の結果となりました。

▽胆振西部衛生組合の今後のあり方について

胆振西部衛生組合の施設の老朽化に伴い、し尿処理対策の今後のあるべき姿について、市町村の担当者からなるワーキンググループでの検討結果を踏まえ、組合議会定例会、構成市町村の首長会議等で検討し、伊達市の下水処理場に関する前処理施設を新設処理する方法で、汚水処理施設共同事業いわゆるMICS(ミックス)事業で実施することに決定し、伊達市への受入れ要請、構成